

報 告

第12回 鹿児島大学医学部保健学科公開講座 実施報告

ストーマリハビリテーションの基本

鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻臨床看護学講座 今村 利香

はじめに

昭和56年(1980)より看護師を中心とした全国ストーマリハビリテーション講習会が始まり、九州でも平成2年(1990)より福岡市で開催されるようになりました。しかし、受講者を引き受ける人数に制限があることと遠隔地のため、鹿児島県内の受講者数は毎年数名という現状がありました。県内のストーマ造設者数は増加しているものの、ストーマケアに関する学習を深めた看護師の数は少ないという問題に対処するために、公開講座を開設するに至りました。

私達が県内の看護職を対象に、ストーマリハビリテーション教育を公開講座として実施するようになり、今年で12回目になります。定員50名に対し、例年定員を上回る

参加希望があり、これまでに763名もの看護職の方々が当講座を受講されました。平成12年度からは、講義だけではなく実技も取り入れており、当公開講座の内容に対し、多くの参加者から高い評価をいただいています。当講座では、受講者用のテキスト作成にも力を入れており、カラー写真や図を多く取り入れ、全体で74頁として内容を豊富にし、講座受講後にも活用していただけるように工夫しています(図1)。以下に、当公開講座の実施概要をご報告いたします。

講座開設の主旨

講座開設の趣旨に関しては、参加者募集の際に準備した案内文を紹介ご紹介させていただきます。

「近年、食生活の欧米化やストレスの増大、高齢化等により疾患が多様化しています。その疾患により消化管や尿路の通過障害が起こり治療のためにストーマを持つ患者が増加しています。これらの人々の精神的苦痛を癒し、ストーマのセルフケアができるように支えるには、より専門的な知識と技術を必要とします。本講座では、看護職を対象に、ストーマ造設から社会復帰までの支援のあり方を講義すると共にストーマケアの基本について実技指導を行います。」

(参加者用資料より)

公開講座受講者

本講座は、定員50名となっておりますが、平成9年は講義中心であったため人数制限は行なわず、その結果98名の参加者がありました。平成12年からは実技を導入したため参加者を60名以内としましたが、講義や実技を担当する皮膚・排泄ケア認定看護師の数が徐々に増加するに伴い、平成16年から今年度まで、60名以上をお受けするようになりました。例年80名ほどの参加希望者があり、参加者調整に時間を要しています。この問題対策の一つとして、一施設3名までと参加者に制限させていただいていますが、参加施設数の数は増加傾向にあり、参加者調整の抜本的改善には至っていません。

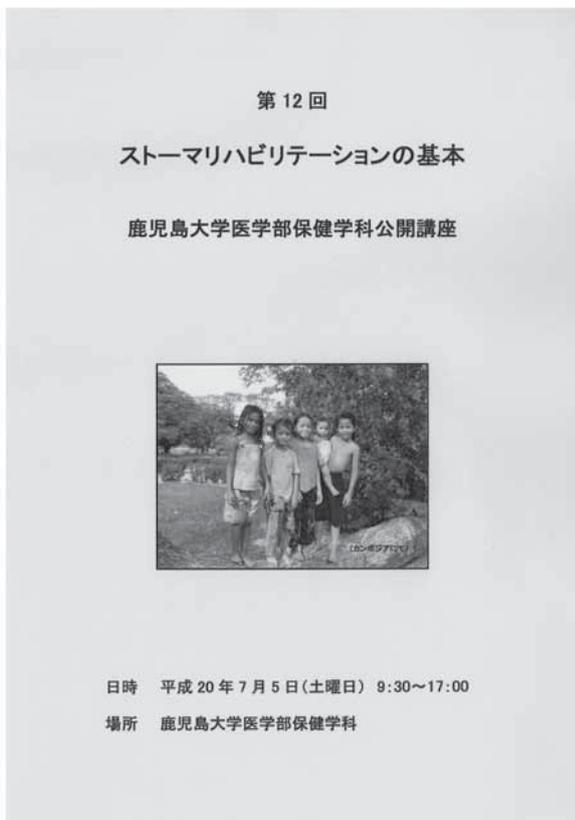


図1 2008年度テキスト(全74頁)

表1 受講者数の推移

回数	年度	受講者数
1回	平成9年	98名
2	10	52
3	11	65
4	12	58 (実技有)
5	13	50 (")
6	14	59 (")
7	15	59 (")
8	16	65 (")
9	17	69 (")
10	18	60 (")
11	19	62 (")
12回	20年	66名 (")
合計		763名

スタッフメンバー

スタッフメンバーは、全29名医師2名(保健学科教授1名含)、皮膚・排泄ケア認定看護師6名、支援看護師4名、こだま会(患者会)会員7名、保健学科助教3名、学生ボランティア7名の総勢29名でした。今年度は学生ボランティアを募集し、公開講座の準備から当日の業務まで私達と一緒に活動し、スタッフの一員として力を発揮してくれました。学生は無報酬でしたが、講義や演習の見学にも参加してもらったことで、貴重な体験になった、このような機会があったら今後も是非参加したいという意見が多く聞かれました。実際に働いている看護師さん達の学ぶ姿を目の当たりにしたことも、学生にはいい刺激になったようです。

講座概要

日時：平成20年7月5日

(土曜日) 9:30～17:00

場所：鹿児島大学医学部保健学科共通教育棟インテリジェント室および保健学科研究棟4階第一看護実習室

対象：保健師、助産師、看護師(9～17時まで受講可能な方)

定員：50名

本講座は、午前中は主に講義形式にて、解剖生理や合併症、スキンケアやストーマサイトマーキングについて学び、

午後からは患者会メンバーによる自らの患者体験についての講話や実技演習など実践を学ぶ形式を取っています。その他、オストメイトへの社会保障制度についての講義も実施し、患者が受けられるサービスとその窓口についても紹介しています。昼休みにはメーカーによるストーマ用品の紹介や使用法についての説明会を行っています。受講者は、募集をする時に9～17時まで受講可能な方としているため、ほとんどの参加者が最後まで受講されています。

表2 講義概要

	講師および講義内容
1	9:35～10:35 石澤隆 医学部保健学科教授 ストーマの基礎と臨床、合併症
2	10:35～11:00 北園正樹鹿児島大学病院助教 ストーマ造設術後の機能障害
3	11:10～11:40 小濱智美 県立薩南病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 ストーマケアの基本
4	11:40～11:55 宮園幸江 鹿児島大学病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 ストーマサイトマーキングの実際
5	11:55～13:15 メーカーによるストーマケア用品の紹介(ランチョン形式)
6	13:15～13:30 今村利香医学部保健学科助教 オストメイトの社会保障
7	13:30～13:50 司会：下前百合香 今給黎総合病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 講話：窪田溜日本オストミー協会鹿児島支部こだま会会長、他6名 オストメイトの体験講話
8	13:50～14:30 高崎靖子 金子クリニック 皮膚・排泄ケア認定看護師 スキンケア
9	14:45～16:35 司会：武亜希子鹿児島大学病院皮膚・排泄ケア認定看護師 演習：櫻木真理子 鹿児島市医師会病院 皮膚・排泄ケア認定看護師、牧尾沙織 川内市医師会立市民病院支援看護師、山下映美、松元瞳、有村夕加 大学病院支援看護師、白川真紀、中馬育子、今村利香 医学部保健学科助教 ストーマケアの実際(実技演習)
10	16:35～17:00 質疑応答



石澤医師 講義・写真



皮膚・排泄ケア認定看護師講義・写真



演習・写真

アンケート結果

アンケートは毎年実施していますが、本年度（平成20年）の結果を一部ご紹介いたします。

1. 年代

20～30代の若い看護師が全体の約7割を占めていました。

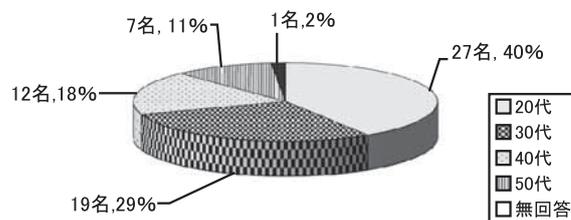


図2 受講者の年代

2. 性別

66名中男性参加者は1名でした。勤務を理由に演習には参加されませんでした。演習では、ストーマサイトマーキングを参加者同士で実施していただいていることもあり、今後は男性参加者に対する配慮も大切にしていきたいと考えます。

3. 公開講座をどのようにして知りましたか

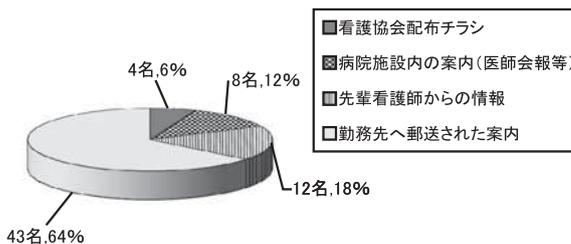


図3 この講座をどのようにして知りましたか

公開講座広報として、毎年94箇所の施設に案内を郵送しています。勤務先に郵送された案内を見て申し込まれる方が最も多く全体の64%を占めていました。先輩看護師からの情報も18%と、同じ施設から毎年続けて参加していただいている現状が明らかとなりました。

4. 公開講座の講義内容はあなたのニーズにマッチしましたか

全体の84%以上の方がマッチしたと回答し、この講座が参加者から高い満足を得られている事がデータ上も明らかになりました。

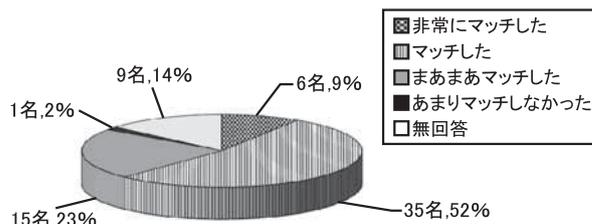


図4 講座内容がニーズにマッチしていましたか

5. 今後このような研修会があれば参加したいですか

この公開講座は有料であるにも関わらず、参加者の83%以上が、今後このような研修会があれば参加したいと回答していました。参加者のリカレント教育に対する熱意のようなものが伝わってきました。

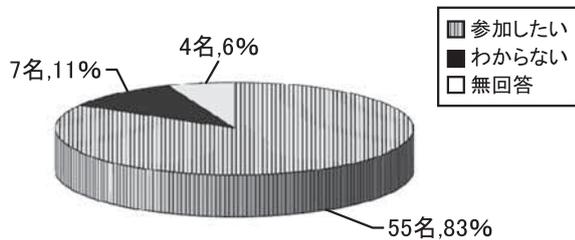


図5 今後同様の研修会に参加したいですか

6. 公開講座についてお気づきの点、ご希望等があればお聞かせ下さい。

参加者より多くのご意見をいただきましたが、紙面の関係上、その一部をご紹介します。

- ◎人数制限があり、今回初めて参加できました。大変だと思いますが参加人数を増やしていただければ嬉しいです。可能なら各年でも参加したい。
- ◎他の病棟スタッフも参加させたいので、人数を増やすか同じ講座を何回かに増やして欲しい。
- ◎一日でこれだけの内容を行うには時間が短い。2、3回に分けて実施して欲しい。
- ◎スタッフの気遣いがあり充実していました。実習がもっとしたかったです。
- ◎演習時間がもっと十分に欲しい。オストメイトの話を聞き、ストーマと共にそれぞれに充実した日々を過ごしている事がわかりとても感動しました。ストーマを作らざるを得なくなった方が少しでもQOLの高い日々が過ごせるようナースとしての知識を増やしていきたいです。
- ◎患者会のみなさんに逆に励まされました。このような会が身近にあればと思います。
- ◎事例をグループで話し合い、患者にあった装具の検討は病院でも悩むところなので、今後このような事を元に検討し患者にあったパウチを選択していきたい。
- ◎体験型演習の時間をもっと多く取りたい。

参加者より寄せられたご意見として最も多かったもの

は、この公開講座の回数をもっと増やしてほしい、参加人数を増やして欲しいといったご意見でした。一般的な講義だけでなく、実際の問題に即した実技や患者体験を取り入れている事が大きいと思われます。また、この講座の特徴としてオストメイトの体験講話を取り入れていることで、ストーマを造設せざるを得なかった患者の気持ちが手に取るようにわかるため、今後の患者への接し方等考えさせられるものがあるでしょう。

参加者の希望として最も多い、公開講座の回数を増やすことや、参加定員を増やすことは、設備や、人員的に難しい側面があります。私達大学職員は無給かつ自分の時間を割いての実施であり、その他ご協力いただいている認定看護師の皆さんも通常業務を抱えての参加となっている現状から、参加者のご希望を全て叶えて差し上げることは出来ませんが、今後も質の高い講座を開催していく事が、私達事務局の役割でもあると再認識いたしました。

おわりに

本講座は今回で12回目の開講となり、これまで763名もの受講者を輩出してきました。例年定員以上の参加希望があり、すぐに定員に達してしまいます。受付期間内であっても、参加をお断りせざるを得ない状況に、ありがたくもあり、主催者一同申し訳なく感じております。

お断りせざるを得なかった方々からは、是非来年度は受講させていただきたいという声をお聞きしております。

この様な声をお聞きするたびに、当公開講座は、鹿児島県の看護職のリカレント教育に大きな役割を果たす事ができたのではないかと考えます。今年は、当講座の責任者でもある石澤医師が大学教員として実施する最後の節目となる講座でした。これまで長い間、大学教員や認定看護師、支援看護師、患者会といった多くの社会資源を一つにまとめ、地域の看護者に質の高い教育を提供し、成果を残す事が出来たのも、一重に先生のご尽力、お人柄によるところが大きいと痛感しています。質の高い講座を開催するために、講座の準備から開催までに半年近くを要し、事務局と認定看護師、学生とも何回も会議や打ち合わせを重ね、業務量としても膨大な量になります。

しかしながらスタッフ全員で協力し合い、楽しく講座を開催する事が出来ました。質の高い看護は、それを

受ける患者や家族にも大きなメリットになります。私たちの実施している事は、間接的ではありますが、患者や家族の入院から退院後の生活を守る事にもつながっていると考え、今後もこの様な講座を継続していければと考えます。

最後に本公開講座の開催にあたり、ご協力いただきました小濱智美、下前百合香、高崎靖子、櫻木真理子、宮菌幸江、武亜希子皮膚・排泄ケア認定看護師、牧尾沙織支援看護師、大学病院の山下映美、松元瞳、有村夕加看護師、大学病院助教の北菌正樹医師、患者会会長の窪田溜様、その他、橋之口、奥園、福元、水流、吉鶴、田、伊藤学生ボランティアの皆様に、深く感謝申し上げます。



患者会集合写真



スタッフ集合写真